

特集「持続可能な成長に向けて」

展示会での新製品の紹介

目次

マネジメント

特集「持続可能な成長に向けて」

- ▶ 展示会での新製品の紹介
- ▶ カイゼン活動
- ▶ 環境配慮の取り組み

事業概要

S 社会

E 環境

G ガバナンス

その他

セルロース繊維配合樹脂「グリーンチップ® CMF®」をデザイナーに紹介

「Recycled/Recyclable Materials ～循環社会実現に向けたアプローチ～」

2022年11月1日～12月26日 Material ConneXion Tokyo (MCX Tokyo)



成形サンプルやペレットなどを展示



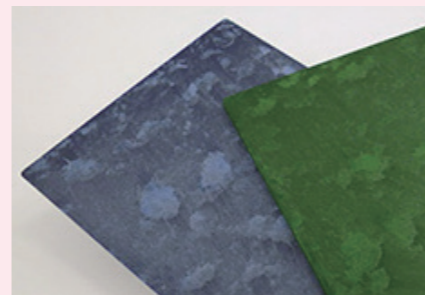
左: iCasカンパニー ファイバーマテリアル事業部 営業グループ 根岸 治彦
右: iCasカンパニー 開発本部 ファイバーマテリアル開発グループ 久保田 展弘

デザイナーが足を運ぶMCX Tokyo マテリアルショールームに、セルロース繊維配合樹脂「グリーンチップ® CMF®」を初展示、地球環境へ配慮し次世代の社会への負担を抑える素材としてだけでなく、プロダクトデザインという視点で紹介しました。また、会場とオンラインのハイブリッドでのプレゼンテーション会を実施し、さまざまな分野の商品開発者やデザイナーの皆様にご興味を持っていただくことができました。独特のマーブル調の意匠を出せることも面白いと好評でした。

Close-up

当初、成形ムラと考え、ムラが出ないように必死に成形条件を探っていましたが、多くのデザイナーより、「二つと同じ模様ができない、この意匠性が良い」と好評をいただき、まさに「逆転の発想」だと思いました。成形条件を調整することで、この意匠性をコントロールできるようになりました。

(iCasカンパニー 開発本部 ファイバーマテリアル開発グループ 久保田展弘)



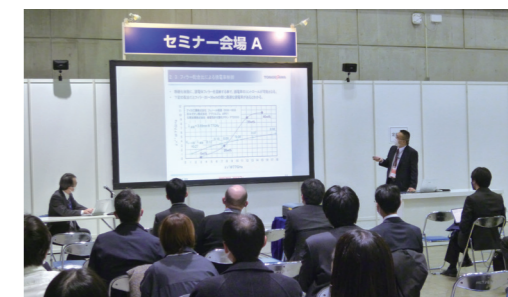
「グリーンチップ® CMF®」成形プレート

高周波デバイスに対応する製品群について 展示・講演

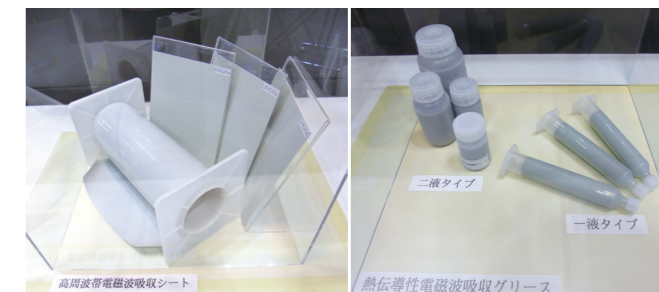
マイクロウェーブ展 2022

2022年11月30日～12月2日 パシフィコ横浜

マイクロウェーブ展の企画コーナー「マイクロウェーブカフェ」へ出展招待され、高周波関連製品の展示と講演会を行いました。講演したiCasカンパニー 開発本部 技術研究所 阿部一智は、「多くのお客様への講演は久しぶりでしたので非常に緊張しました。近年、通信の高速化や、機器の小型化、高出力化が進んでおり、熱・電気・電磁波の対策に困っているお客様が多いことも、3日間の展示会で実感できました。「iCas」製品を通じ、より良い社会の実現へ貢献したいです。」と開発意欲がますます高まったとのことでした。



講演者: iCasカンパニー 開発本部 技術研究所 阿部一智



高周波帯電磁波吸収シート (二液タイプ) 熱伝導性電磁波吸収グリース (一液タイプ)

※ iCas は株式会社巴川製紙所の登録商標です。

特集「持続可能な成長に向けて」

カイゼン活動

カイゼン活動

TOMOEGAWA グループでは、会社の入口から出口までの業務フロー全体を見直し、非効率な業務を省きながら付加価値を高めるカイゼン活動に積極的に取り組んでいます。現場業務のカイゼン活動にとどまらず、設備部門とスタッフ部門との協働、グループ企業間が協力し、カイゼン活動に取り組んでいます。全員参加型の活動とすることで、「企業体質の強化」を目指しています。

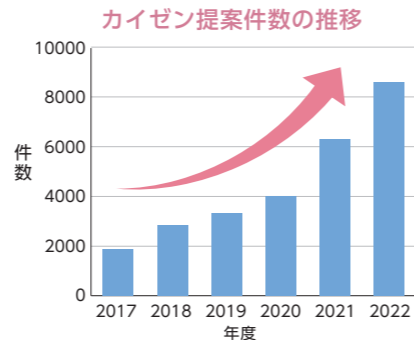
カイゼン活動については、5S（整理・整頓・清掃・清潔・躰）、安全、設備、効率化など、さまざまな観点からの取り組みが行われています。2017年度、2,000件弱だったカイゼン提案件数は、2022年度は8,000件を超え、約4倍強の水準に増加しています。

些細な問題点であっても、積極的にカイゼンに取り組むことで、次の課題解決の気づきとなりカイゼンレベルの向上が図られています。

現在では、さまざまな観点のカイゼンが結びついて相乗効果が生まれており、カイゼン活動をベースに、業務プロセス全体を見直す取り組みや、広い視点での情報の見える化・整理を行い生産性向上を図っています。(Close-upで紹介します)

また、全社コミュニケーションの場として開催している総合夕会の中で、カイゼン活動の紹介・褒賞を行っています。これらに加え、2022年度から部門部署を超えたカイゼン活動の横展開を目的とした

「カイゼンフォーラム」を開催しています。(カイゼンフォーラムについては、13Pで紹介します)



目次

マネジメント

特集「持続可能な成長に向けて」

- ▶ 展示会での新製品の紹介
- ▶ **カイゼン活動**
- ▶ 環境配慮の取り組み

事業概要

S 社会

E 環境

G ガバナンス

その他

Close-up

清水事業所の業務プロセス見直し・再構築の取り組み —電子材料事業部—

電子材料事業部の清水事業所では、中核を担う一部電子材料製品について、原材料の購入から出荷までの流れを見直す活動を先駆的に行っています。

まずは、包装、出荷の工程から、初めて業務を担当する従業員でも、作業の流れや製品の場所が分かるように、棚のレイアウト、製品の陳列方法、作業ルート等の見える化を進めています。見える化が進むと、これまでの雑然とした状態では発見できなかった問題点が見つかり、それをカイゼンすると更に新たな問題点が見えてくるというように、カイゼン活動のサイクルが回ります。また、各工程で見つかった問題点を解決するためには、それよりも上流工程でのカイゼンが必要となる場合もあるなど、活動の対象範囲が拡大していきます。

さらに、カイゼン活動が個別工程の部分最適にならないよう、広い視野を持ち業務プロセス全体での生産性向上を目指し取り組んでいます。



カイゼンの様子

サプライチェーン全体での最適な製品供給に向けて —画像材料事業部—

画像材料事業部は、国内外のTOMOEGAWAグループ企業と連携し、世界に向けトナー製品の供給を行っています。

近年のコロナ感染症の流行で、当社でも一時、物流や原材料調達に支障をきたした時期が生じましたが、これによりTOMEAGAWAグループのみならずサプライヤーを含めたサプライチェーン体制の重要性を改めて認識しました。

2022年度は、静岡事業所内でトナー生産に関係する部署の担当者が集まり、「物と情報」の流れの図（バリューチェーンマップ）を作成し、受注から原料調達・生産・納品までの業務プロセス全体のモノと情報の流れを俯瞰的に整理することで、情報の滞留や非効率な業務が無いかを洗い出すカイゼン活動を行いました。

また、画像材料事業部、国内グループ会社をはじめ海外グループ会社の担当者も静岡事業所に一堂に会し、モノと情報の流れを整理して、お互いが発信する情報がどのように自部門・他部門の活動に関わっているのかについて、理解を深める機会を持ちました。

今後も、TOMOEGAWAグループで受注・製造・販売の最適化が図れるよう、画像材料事業部SCM※グループが中心となり、グローバルな視点での活動を行います。

※ SCM：サプライチェーンマネジメント



ワールドワイドミーティングでの情報整理の様子

目次

マネジメント

特集「持続可能な成長に向けて」

- ▶ 展示会での新製品の紹介
- ▶ **カイゼン活動**
- ▶ 環境配慮の取り組み

事業概要

S 社会

E 環境

G ガバナンス

その他

特集「持続可能な成長に向けて」

カイゼン活動

カイゼンフォーラム

2022年度から、国内のグループ企業全体で「カイゼンフォーラム」を定期的に開催しています。

各部門部署で実践したカイゼン活動の発表と質疑応答を通して、カイゼン活動への気づきを得ることや部門部署を超えた横展開の機会づくりを目指しています。

2022年度は3回のフォーラムを開催し、カイゼン活動を「知識・スキルアップ」、「余力作り」、「組織間連携」、「モチベーションアップ」の категорияに分け、累計で54件の発表を行いました。共通の課題を認識したり、各部署の取り組みを共有でき、カイゼン活動を加速する機会となっています。

開催日	発表件数	外部講師講演会
2022年 5月24・26日	27件	開催
2022年 10月11日	16件	—
2023年 2月14日	11件	開催

また、カイゼンフォーラムでは、外部講師を招いて全従業員を対象に特別講演も開催しています。「絶対できないといわれていたことができた！わけ」や「ほめるとは相手の価値を見つけよう」など、さまざまな知識・スキルを積極的に取り入れる取り組みも行っています。

参加者からは、他部門、他部署の仲間の姿勢に感銘を受けた等のコメントが多く寄せられています。また、各講演に対する反響も大きく、今後もカイゼンフォーラムを継続的に開催し、モチベーションアップを図っていきたいと考えています。



発表の様子

インタビュー

カイゼンフォーラム 事務局インタビュー

Q. カイゼンの発表はどんな内容ですか？

1回目の発表ではコストや成果にフォーカスしている内容がいくつか見受けられましたが、回を重ねるごとに、カイゼンのプロセスや Before/After で何がどう変わったかに注目した内容に移ってきていると感じています。

Q. 発表者の様子はどうですか？

大勢の前で発表するのは初めてという従業員も多くいますが、自分達が取り組んだ内容を分かりやすく、自信をもって発表している姿が印象的です。発表前には、部署内で内容を確認し合うなど、部署内のコミュニケーションの1つにもなっている事例もあります。



Q. カイゼンフォーラムへの反響はどうですか？

- 開催後にアンケートを実施していますが、
- ・他部署の仕事について理解できた
 - ・全社が活性化していることを実感した
 - ・皆さんの熱量に胸を打たれた
 - ・負けてられないなと感じた
 - ・改善活動に自発的に協力しようと思った
- とさまざまな意見を頂いています。

Q. 講演会の様子について教えてください。

2022年度は2回講師の先生をお招きして、講演をいただきました。各回、予想を上回る200名近い従業員が参加しています。

講演では社内では聞けない貴重な話を聞くことができ、参加者からも大きな反響を頂いています。そこで得た気づきが、各職場のさまざまな活動に活かされることを期待しています。



講演会の様子

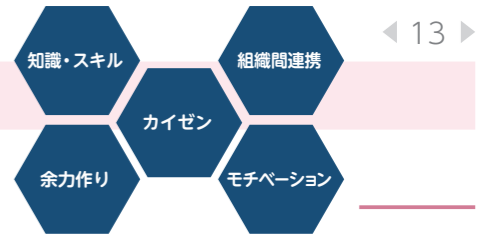
Q. 事務局としての活動はどうですか？

開催当初は3名で行っていましたが、今は7名までメンバーが増えました。また、開催にあたり事務局以外の従業員の協力もあります。

事務局として携わって見て、横のつながりが広がりました。カイゼンフォーラムを通じて仲良くなった方と、フォーラム以外でも協力する機会があり、日々の仕事がやりやすくなったと感じています。



カイゼンフォーラム事務局



特集「持続可能な成長に向けて」

環境配慮の取り組み

目次

マネジメント

特集「持続可能な成長に向けて」

- ▶ 展示会での新製品の紹介
- ▶ カイゼン活動
- ▶ **環境配慮の取り組み**

事業概要

S 社会

E 環境

G ガバナンス

その他

エネルギーの効率的な利用、CO₂削減の歩み

TOMOEGAWA はエネルギーの効率的な利用や CO₂ 削減のため、2007 年以降、各種大型設備の導入により、使用する燃料を環境負荷の大きい重油から都市ガス等へ燃料転換を行ってきました。また、これらの燃料転換に加え、LED 照明への切り替え等による省エネ対策、生産性向上などの取り組みを継続して進めています。



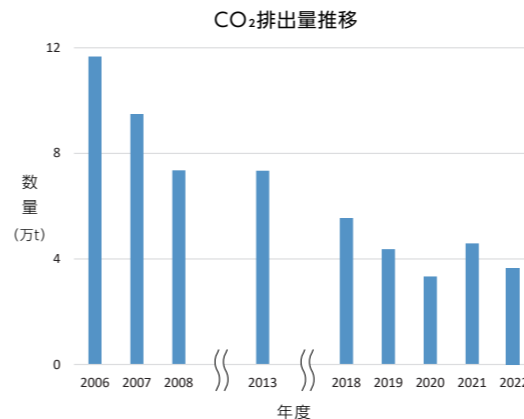
ガスボイラー



コジェネレーションシステムの全景

CO₂ 排出量の推移

政府の目標である温室効果ガス 2013 年度比 46% 削減、2050 年カーボンニュートラルに向け、エネルギーの効率的な利用等を推進していきます。



コメント

これまでの活動を振り返って

当社はこれまで、エネルギーの効率的な利用のため、その時々に応じて、省エネ委員会やエネルギー平準化委員会といった全社横断的な活動を推進する組織を設置し、対応を進めてきました。これら組織の活動成果を、省エネ / 節エネ、エネルギー効率化に寄与する新規設備の導入や、新しい社内の仕組みの構築につなげ、ひいては、CO₂ 削減に貢献できたと考えています。

引き続き、エネルギーの効率的活用、CO₂ 削減を進めます。
 設備技術 担当部門

カーボンニュートラルへの取り組み

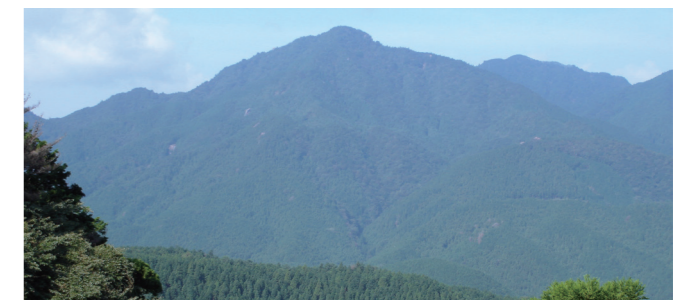
CO₂ 排出量削減については、エネルギーの効率的利用、省エネ対策を徹底して実施してきています。加えて、再生可能エネルギーである太陽光発電の設置などの検討も行っています。

当社は、和歌山県新宮市に 3,031ha の山林を保有し、それらの保護や維持に努めています。森林は CO₂ 貯蔵機能を有しており、当社社有林の CO₂ 吸収量は年間約 0.7 万 t になります。さらに、間伐材については、バイオマス燃料として提供するなど、CO₂ 削減に貢献しています。

2050 年カーボンニュートラルに向け、CO₂ 排出量の削減、CO₂ の吸収という 2 方向から取り組みを進めていきます。



工場屋上の太陽光パネル



新宮市 高山